

平成27年度 評価結果報告書【水産試験場】

1 機関名 水産試験場、附置機関：栽培漁業センター、内水面総合センター
会議名 農林水産業活性化支援研究評価会議 水産研究評価会議

2 開催日時 平成27年9月1日（火）9：30～12：30
開催場所 嶺南振興局二州合同庁舎2階会議室

3 出席者

〔評価委員〕

宮台 俊明	福井県立大学 海洋生物資源学部 学部長
本多 仁	国立開発研究法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所 所長
齊藤 洋一	福井県信用漁業協同組合連合会 会長
下亟 忠彦	福井県海水養魚協会 会長
子末とし子	福井県漁協女性部連合協議会 会長
加藤 弘剛	福井県農林水産部食料産業振興課 課長
松崎 雅之	福井県農林水産部水産課 課長

〔水産試験場〕

杉本 剛士	水産試験場長
岩谷 芳自	水産試験場海洋研究部長
木下 仁徳	栽培漁業センター所長
安田 政一	内水面総合センター所長
河野 展久	海洋研究部 主任研究員
高垣 守	〃 主任研究員
鮎川 航太	〃 研究員
嶋田 雅弘	〃 主任研究員
藤野 数恵	〃 研究員

〔事務局〕

杉本 雅和	食料産業振興課 参事
前川 英範	〃 試験研究改革チーム 主任
渥美 正廣	水産試験場企画支援室長

4 評価範囲

(1) 事前評価課題（1 課題）

- ① 「越前がに」漁場における生産力向上技術等の開発（海洋研究部）

(2) 事後評価課題（4 課題）

- ① バフンウニの地蒔き式養殖導入試験（海洋研究部）
- ② 海況情報提供事業（福井県版「海の天気予報」の開発）（海洋研究部）
- ③ 地域漁業管理総合対策事業（刺網におけるヒラメ資源の有効活用に関する研究）（海洋研究部）
- ④ トラフグ簡易性判別技術支援事業（海洋研究部）

5 総評概要

(1) 研究課題評価

評価基準はAからEまでの5段階で行い、評価結果（総合評価）は委員7名の平均値で算定した。

事前評価1課題については、B評価であった。

事後評価4課題については、うち1課題がA評価、3課題がB評価であった。

(1) 研究課題評価

① 事前評価

研究課題名	研究期間	研究目的 および必要性	総合 評価	主な意見
「越前がに」漁場における生産力向上技術等の開発	H28～32	ズワイガニは本県の最重要水産物であるとともに観光資源でもあることから、資源の増大による生産額の増加およびブランド効果による観光誘客数の増加が期待されている。 漁獲量が停滞しており、資源管理による増大効果を加速させるためには、漁場生産力の向上を図る必要がある。	B	<ul style="list-style-type: none">ズワイガニは福井県を象徴する資源であり、低迷する資源を回復させ増大に向けることは喫緊の課題と認められる。ズワイガニ資源の底上げに必要な技術要素として、漁場造成と、保護礁の再構築により再生産の向上と安定化を目指すことは有効なアプローチと考えられる。稚ガニの生態および生育環境の解明は、将来の資源増殖に向け重要な情報と考えられる。漁場造成の試み、餌料環境解析を行い、漁場造成の効果検証を目指すという課題設計は適切なものとする。基礎データの集積をしっかりとした上で、中間評価で研究計画を練り直してほしい。

②事後評価

研究 課題名	研究 期間	研究目的 および研究成果	総合 評価	主な意見
バフンウニの地蒔き式養殖導入試験	H 22 ～26	<p>バフンウニ漁獲量は低迷が続いている。そこで、地蒔き式養殖を現地に導入することにより、漁獲量の安定化を図る。</p> <p>地蒔き式養殖に向く好漁場の条件（水深2m以浅、大小の転石が2～3層あること）を解明した。好漁場への放流試験の結果は、生残率（60%）、漁獲サイズ（30mm）とも良好であった。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> バフンウニは、歴史と伝統ある「越前雲丹」の原料として重要な磯根資源であり、本課題は喫緊のテーマであった。 好漁場条件の解明を達成し、身入りの良いウニの漁場形成要因の把握ができたこと、放流ウニの生残率と再捕率の関係から再捕率の低さという課題を明らかにしたこと、経済条件の分析を試みたことは評価できる。 ウニの餌はホンダワラで、冬場になるとなくなる。海藻の増殖にも取り組み、年間を通じて餌があればウニだけでなく、アワビ、サザエ等磯根漁業にとっても大変有効になるのではないかと期待する。
海況情報提供事業（福井県版「海の天気予報」の開発）	H 24 ～26	<p>実用的な海況情報の提供のため、海況情報システムの開発、リアルタイム海況データの取得、若狭湾周辺海域に特化した海況予測モデルの開発および情報発信システムの構築を行う。</p> <p>福井県版「海の天気予報」を開発し、海況の実況と予報をホームページ上で公開するシステムを開発した。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 非常に優れた研究であり、今後の発展を期待する。 漁具被害の軽減や出戻り操業等の防止によるコスト削減につながる成果である。 漁業者だけでなく、県民に広く利用できるように仕向ければ、一層普及が進む。今後の発展に期待する。 海上における雨雲レーダーも今後の技術開発に加えてほしい。 より一層の海洋予報の精度向上を期待する。
地域漁業管理総合対策事業（刺網におけるヒラメ資源の有効活用に関する研究）	H 23 ～26	<p>刺網は、県内全域で営まれているが、ヒラメ三枚網は資源管理の面で問題がある。ヒラメ一枚網の実用化について検討する。</p> <p>一枚網と三枚網では、三枚網で漁獲金額が多く、一枚網導入は困難と思われた。三枚網の2日操業は、1日操業に比べ、漁獲物の品質が低下するため漁獲金額に差がなかった。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 固定式刺網漁業では、刺網の2日操業が1日操業に比べて漁獲金額に差がなく、資源の無駄が多くなる事実を明らかにしたことは評価できる。 ヒラメ資源に関わらず刺網での漁獲物の有効活用の視点から、操業方法の変更を提案できたことは評価できる。 事業で得た知見（成果）を、いかに漁業者に周知、納得させるかに力を入れてほしい。

研究 課題名	研究 期間	研究目的および 研究成果	総合 評価	主な意見
トラフグ 簡易性判 別技術支 援事業	H23 ～26	<p>価値の高い雄のトラフグを効率的に生産するため、種苗生産現場での実用的な雌雄判別手法および雌雄別の養殖技術を開発する。</p> <p>雌雄判別に要する費用を半減でき、雌・雄別の養殖でも通常養殖と成長の差はなかった。光刺激に性成熟促進効果は確認できなかった。性成熟に遺伝的な家系の影響が示唆された。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・技術開発を関係機関との連携協力で進めたことは評価できる。 ・種苗生産現場で使える技術の開発ができたのは評価できる。 ・本技術が、漁家収入の増に繋がるかどうかの試算、経済分析をさらに進めて、普及に繋げることを期待する。 ・成長の良いフグ（1年半で1kg増）で、健康であり、なおかつ白子有りであることがフグ養殖では求められている。この技術を種苗生産現場で活かしつつ、大型種苗生産を確立してほしい。ただ、養殖業者の需要に応えられる数が種苗生産できるか心配である。